

醫道沿革考 附錄



✕  
19

醫道沿革考附錄

全



490.2

五

道

No. 1998

1219

道

道

道

道

道

道



富士川文庫

243

道  
道

△その

鑿道沿革考附録

世小盛衰あり道小沿革あり。古今の變遷人意の表  
 小出るもの素より少からば。中々吾鑿道の如きハ  
 靈幸神の御世より魂極今の世小至るまで。世と  
 逐ひ時小随ひて變革マシム。既小鑿道沿革  
 考小辨へたるが如し。然きども日漏せる更甚  
 多く。盡さざる事は多少らば。故今再び辨ずて  
 む中々小大己貴少彦名神相並ば。て天下を經營  
 たり。又鑿法と定然賜ひて少彦名神は伯耆國より  
 常世の國小渡り坐し。大己貴神ハ大國主や坐て天



下と所治賜い。さて天神の命は随て顯事と。皇孫命  
小讓り奉り。己命ハ幽事と司りて出雲國大社小鎮坐  
し後少彦名神の後と慕ひて常世國を渡り。相共  
カを戮せて海外萬國を造成賜ひ其國に教と垂き  
道と遺し。殊更ハ。鑿道と傳り賜ひし事あり。如此  
は。己高小誇る如と思ふも有るべき也。其ハ。確  
證ある事ふて更ハ。浮多。海に非ず。を師  
説少彦名神の渡り坐せる常世國と云は。何方小  
此。皇國を遙小隔り離して。容易小往還か。處と云  
名不ると。其本は神の住坐る幽境と常住不變の義

△女  
△關字

小ハ小より起りて現在せる外國と云は此をり見せる所  
ハ。泛く稱ふ言ひは成しあり。さて少彦名神思し。看ん  
旨ありて常世國小往坐志ハ。大國主神愁ひ坐て。吾獨  
して何ぞ。此國字得作らむ。詔給ふ時小。其和魂大物  
主神外國より海原と照して歸り來よ。共に天  
下と經營し給ひ。然し。後に大國主神遂小此御國  
字皇孫命小讓り奉りて幽事と云。看ん。杵築大  
社小永く隱坐せり。然る小  
文徳天皇の御世小。少彦名神と二神少く常陸國小歸  
り給ひ。昔此國を造り訖て東海小去往く。今民字濟ひ

渡り

爲小亦更小來歸きり終詔予日一バ大名持神も給ひてを

有りる

神世の傳と記留たる事の以て舊き由に閑題記小委曲小辨乃  
多る如くふる也其古記をいふと古事記小探録して奏進と

る和銅五年より此神たちの歸來ませる齊衡三年より百四十五年の  
少彦名神の常世國小渡坐依古傳と記し留むる時小後世小あり

事此有むやハ誰う知らむ此一事を以てハ神世の傳の正實なる事  
は辨及び乃ハ但しハ生漢意小率られた内人等の神世の傳を

疑ふ倫小云ふ言その直助曰この事靈道沿革考小文德實錄と引て  
詳小辨予多る字見るは

さて少彦名神は前小渡りゆえ大名持神も幽世小隱  
り坐て後小りの神に御迹字追て渡り坐るふて此時

の御託小東海小去往多る也詔するに依るハ二神能も

小其始免ハヤ茲東海なる國小渡り其どり相並びて

神世の當時より久遠のいひた外國と作り堅めて

此時歸り來まるとるふり是として赤縣列島始免外國を  
小此神等の傳は方の如く存り

さて少彦名神のはと免伊作りの小江小依り來也

せる事は師説の如く産靈大神の御辛候より漏落出

して外國を放き給ひて依來依せる小て伯耆國より

常世國小渡り給ふや有るややハ外國を往坐るるを

此神も入替まるとる如く和魂大物主神寄來るは是は

早之外國を渡りて坐しが還り來坐るふて此は共小外

國を關關營せむ紀の事也ハハ既ハ師の古事記傳小  
少毘古那命の常世國小渡り

給ふる事小此神初天上より外國を降坐せる後前小海をい依來坐  
るハ外國より渡り來坐るふて後に常世國に渡坐る有はハやハ外國

小遷り坐るるなり此趣小據て按ふ小外國は皆も此神の經營堅成し給予汝物なるなり抑今々の言を聞かむ人いふ小思はじ千年小も篤て善く外國の説との聞ふきて心は底に深着たる世人なるも並て信ふ人もをさく有るべきなり然る徒ハ何れも有る皇御國の物學び口も人々此事心得居居き物をも言を洵く万国傳信紀事万国航海圖説英國志を記す亞細亞洲は世界開闢の初地也て神聖摩小出人類肇て生ずる所の地常王の國と建る皆他洲小先だてり亞細亞も小神と云ふ小神聖道出の郷なる故小守りて是稱りなり神列も云が如くふや云ふるを見て知るは但も其亞細洲も何れも漢學者流は赤縣字指せりと思ふも有る法も然らば此專ら皇國小當れ其證は講本赤縣人の書る素問小東方之域天地所始生也也見之史記漢書おぞも小東北者神明之舍也云ひ五行大義小人生始於東方水也見之鵠冠子也東方者万物之立植焉云云を介して見よ我皇國も世界中の君國おぞも云るは我が私言小非可天地小貫きたる公論なるも悟るは皇孫命小國避中して後小往坐るに其和魂をうて大社小鎮

座也る全體の御魂を往坐ける其ハ常陸國に歸來坐せる時の御託小大奈母知神の詔予汝は御本體は御名なるを以て是と知きり斯て漢土天竺を始り其餘の國この事を記せる書等にその事蹟と知るを傳ありや小稽ふるに間近き故や漢土には殊小はその事蹟正しく傳り彼太昊氏も伏羲氏も太真東王父も扶桑大帝も云るは大同主神小坐しその太昊氏知小三才の本義也傳予神農氏に鑿藥の真術を授けし。泰乙小子泰乙元君なるも稱せらる神真は少彦名命なり有るは君の共泰乙小子を東海王清華小童君や東華大神青童君やも青真小童君やも云ひて其形嬰孩の如支神なる故

神界にて名をよる由見え扶桑國の方諸といふ山小住の由不  
り是少彦名神なるて誰神の首らむ又扶桑國の皇國の事か  
るこや扶桑國考小考に記せる如くなるも其扶桑國小坐て幽界の太帝たる  
神は、大國主神とたてて誰神の有らむの直助曰く此等の事赤縣大  
古傳小詳なきに就て見ざる

よる天竺の籍ゆる大國主神に渡り坐る事蹟は見  
之ぬぞ其幽冥を知る中ゆ事の訛傳はいも多之少  
彦名神ハ彼國をも開闢し給るや聞えて其事蹟以  
て詳小傳ありて梵天子と稱し童子天と申して所  
謂梵志の遠祖ハその梵天子の口より生出たる由して其傳  
ふる學は高尚にして玄學は音小叶するあや彼玄  
莽比立ぶ西城記小梵志の學風を載し博く精微

城域

奥に

字究えて玄真を貫窮し人小大義を示して導く小微  
言を以し古小博く居て物外小沉浮し事表小逍遙し  
て寵辱小驚るに知道を責びて匱賤と恥ばや有るが  
彦名神の神業小符する字思ふは  
直助曰此等の事や  
て見たし又梵天子既く四吠陀論を傳ふ其齋やある婆羅門を其四  
吠陀と學び來りしなり四吠陀の一日壽謂養生經生靈方事二曰和云  
三三曰平云と四曰術云となりしなり

はて漢土天竺やもえに小我が皇神たるの開闢し給る  
る國を以て故小漢土の玄學天竺に梵學やも小其根元ハ  
みか其神等より出たり是を以て玄學を更かり梵學  
とも我が古説小傳ひ漏せる正義に採用するべき事

けに無小しと非ず。右二国の古道に我が神真小出  
 なる由來を知得むには其小準るて其餘の國に  
 開闢の更ふり其道に根元も我が皇神たちの傳説  
 り出たる校意と交りし物にて謂ゆる洋學に書小  
 見ゆる藥劑の製煉及び伎巧の精奇なるも其恩頼  
 小洩るる事なき由縁を辨ふべし。その其謂ゆる製煉  
 なげり諸術と始を  
 都て西洋から諸藝術の如くは印度より傳りたり事なる小彼見  
 ら次々小工夫と加りて今の如く精細なるに至るは必ず彼國の起原  
 と云ふもや。直助曰西洋説ふ所の金丹の法早く傳はり其より漸く  
 考得て製煉術と精くさす。近なると思ふ。  
 抑少彦名神のおこし。鵜冠子小素こ小子執大同之制調  
 奉鴻之氣正神明之位者也。漢武内傳小青真小童

君云形有琴張之貌故仙宮以青真小童為号其為崇  
 也。梁朗洞照屋周尚慶。玄鏡出巖才為真偽。碑于扶廣  
 權始運。遊雲園治仙職もや有りて。其神業の万国に替支  
 事を知る處し。さて大國主神少彦名神も七小。此扶桑域  
 内小出宮を擇りて布居せし。漢土を始々四方の國に小  
 七。道宮を調りて樂府を設けて。其國にの神真子主宰し其幽冥  
 をし掌給ふと。既不著せり。之。赤縣太古傳小載たる峨眉山  
 の仙宮を治むる天真皇人ぬいふ神真子扶桑太帝の  
 所使ふりも有りて知也。  
此は疑もなく大國主神の御の子百  
 八十一神あり中十五神と云ふ  
 事。天下の四方此國に牙遣りたる中の一柱  
 なる也。

中々晋世小の魏華存と云牙るが許牙。東華小童  
君也共小降りて。道法を授與せる場谷神仙王也聞之  
し。亦真は扶桑太帝の陪從第一にて。其命も承て降とる由も  
る言代。之神も思はる書扶桑場谷も同じ城にて。即  
皇國字云牙ばなり。して總て正しき道書也。小彼國人  
は更なり何國の人小や。一道德を修し得て神仙の位  
小至る小。扶桑の靈域に到りて。太帝東王父小并謁して  
其印可と受け生簾也云子小其名字載さきて後にその  
位小昇り上天して天皇太帝也。天始天王小も并謁  
し。を以牙り天皇太帝を。伊邪那岐大神字申し。

金神域に

元始天王は皇産靈太神を申し。斯の如く外國に人ほら小。我が皇神の道と修し  
得て神仙の位を賜はり此神域小住するも多ある  
小生もて然る神域なり也。し得知らん儒佛の教  
意を先として生涯の非を脱らん。芻狗行尸の  
倫ふて世を終る人の多きは。最も悲しく憐むべき  
事なり。さて名に論ふ如く二柱神あり外國を  
をも經營せり。土地異なるも産物も異種を生し  
殊に國柄小合せ其時小應して教示し給牙る事  
の多あるを。其事物も悉く本地小傳牙て識  
ある人小取捨せし給ひ。その外國小傳給ひし  
事也。の大概を云はし。

世經世治國人倫の道は更なる天文地理ト易曆法文字音  
律醫藥方術軍陣悉くその經典ヲ傳テ給たり。是より大國  
主神、外國（中略）御名多く、皇國（中略）七ツの御名あり。故  
皇朝（中略）白（中略）給はじの神慮也。見之  
人世也。よりて大迦羅國の人を來朝せし給たり  
を始也。

宗神天皇の御せりの大物主神に御託ありて。大  
迦羅國の人を來朝せし給たりを始也。て  
神功皇后小神たち憑坐して韓字伐し給たり  
後。その外國より産物ぞ獻りて今ハ大り。諸蕃  
國の事物も漏るる有る。之を所思ゆるはり集ふ

事は大名持少彦名神の外國の事執り給ふ思頼  
小依あやなかり。さて天竺の醫道も禁法も藥劑も  
兼用し。其趣大凡漢土の療法も同じ。豈小縁  
の事らむや。共小我が皇神の道を傳ふるが故

我が神典に故實に符合れるなり。漢土の醫書に中  
古も黃帝の内經直助曰玉氷が次注せる以前の古文をこし  
直助曰玉氷が次注せる以前の古文をこし

神農に本經。仲景に傷寒病論。ふらみ。我が大神  
の道より起原せる物なり。かく云ふ不審み思はじ人

元と明ら然として後小天竺の療法と知じや。欲ては印度藏志  
見なく漢土の古醫道を見む。故に赤縣太古傳志都石屋小  
見らば。直助曰此類の師説其著書中散在し。事繁多小  
長く容易採擷し。難也。故今其要を摘て其大意を擧げらるる見む人  
其意を得て

を以るふて其説の妄あらざる事と辨ふたゞさき海  
外の鑿道也

皇国小入るも亦神の御意小之花落て根小歸る理不  
免也ば強小惡ふ及まには非らるる也と取捨とて其宜き  
と取りさてこまき。

皇国此道に合せ。これを

皇国の物をえて用を多らむにも裨益少らざらばは  
如斯て方今存在る所の鑿道の大意を取總て論はぶ  
小。先

皇国の古鑿道のも。上古神真の古傳をゆもて其説

疎まが如く其法略なるが如くふ一通に見過さる

も小い。其意淺く信をきもの無が如く熟此を見

まば其意深長廣大にちて天地の實理に合ひ。活物小微

ていさうも違ひをるく其大要をいはぶ專活體小にて

診得らるる限り。察得らゆる限りを舉て人身の成始

をり藏府の官能。魂魄の玄理。氣血の運用。視聽言動の

妙機に至まて都て人身の平常の理を盡し。さて疾

病の元本。病證の原因。治療の準則。藥能の源由。藥方

乃義味に至るまて傳子て漏す事なく實に幽玄微妙

の理を盡しるるものなり中古漢家鑿道を渡りしを

り。陰陽五行の理ヲ本キ五藏六府十二經絡ト立て。人身の理を説き六淫七情を本キして病源ト論ヒ。五味五色寒熱温凉を立テ藥能ト論フこトなきガ素ヲ立テ空理妄誕トして確説あるに阿ラず然レもト打聞クと小深理ありト小聞ゆるク。世人多ク信ジ遊シ小世間一般此鑿流トなるク其ト以來千有餘年世ノ行ハシ故ニ遂ニ他ノ鑿道トなきガ如ク小ノなきトなりト然ル小室永正徳の度小至リて後藤左一郎ト香川太冲山脇道作ト等ト徒ニ出テ其ト空論妄説ト音破シ相次テ吉益周助男猷修夫等出テ悉ク皆拂除シ△  
△鑿揚ト行ハ更ニありト藏府經絡藥性ノ寒熱温凉ノ説ト至ルまで

て。大小復古ト唱ヒ世ノ鳴ル是ノ依テ世鑿の眼目一新シ。天下鑿タらシむク徒相争テ此門ニ入ス故ニ通シ邑大都ハ更ニふリ邊土遠境ト至ル中ニて此鑿流ノ有ラざる地トなきト至ル是ト以來鑿道遂ニ兩流トなるト所謂古方家後世家ト又ト同シ頃ニ西洋窮理家ト去リ一レ流ノ鑿道湧出シ。文化の度小至リて漸ニ世ノ行ハシなきトなりト年毎ニ小盛ニありトもト來テ當今小至リて弥益成シなりト然レして其道タル。死體ノ剖解テ皮膚筋膜肉骨諸藏諸府の官能ト説キ。病源藥能及制煉分析等ト至リて精微ト極ニ詳細ト盡シて實ニ小餘蘊トなきト如ク抑シ此三道素

たり得失なき小非ざれども概して是を以ては治病  
の術に専ら経験にかかり経験なくして病を臨むは疑  
念なきこと能はば。若心中一点の疑念あるは誰か  
断然かして事を處するを得ず是故に何れ道に學  
びありやとも是を實地に施して至りては其術を得るべ  
得ざるを小あは其術を得ざる病愈え其術を得ざ  
れば病を愈はる能はざるなり。何れを云ふもいふ  
小其道の根元吾皇神小出て同一致なるが故なり。今其  
道小異同あるものハ其國々の風土人情小異同あるが  
上小數百年を経る間小各々人智を以て向て小剛神

増減しかるを以てなり。さてあきを合せて論はむ  
せけるに西洋の如きは解體窮理と主せし——吾古醫  
道の如きは活體窮理と本せし。獨當今漢家の如きは脈  
證を以て平據せず解體窮理と主せけるものハ自  
ら外治小長し——活體窮理と本せけるものハ自ら内治  
小得る漢家獨り理小拘はらざるも亦自ら得る所  
也。是故に中風痿癱勞瘵膈噎の如き古今  
小通りて不治せける病小至りては何れかの整流せし  
も是を治する事事ありん古今小通りて治し得る所  
の病をば何れ整流にても是を治する事を得るなり

然して其診察の册暗治術の功拙に至りては其人に  
存するあり今監局小整則と立整政を天下小施さし  
やんるを先其論説の優劣ハ暫く指きて其薬術の  
効驗的實ふて濟世に實益ある限りを撰み。参互折衷  
して一編集し是をなす

皇國整典を以て日夜講究練磨しあらい小天下  
無比の良法にして其術必二大列小冠絶んを。然を  
ども道に内外あり本末あり主客あり其内亦亦を  
其外亦亦を其本と主と其末と客と見るに非  
さし。道を以てに足らざるを。さて其内を何ぞ  
皇國を以て本と何ぞ

皇國小存れる所の道や名を以たり。然して道ハ  
彥靈神天地を共に始て起し大己貴少彥名の二神天  
下を經營し蒼生を愛み賜ふ御意を以て其法  
と定先海外萬國に傳り賜いふを名久須  
斯又須利を始め病名薬名及び病證の稱呼を以  
りその二のれを  
皇國從小を内子主として本を立ちて以て若  
然らば外を主として未に従ひ。よき事海内に  
推むを天下の公道に非るを如何ふせと  
皇國の道とて海外に主とす。

皇國其物子して海外の名を稱ふるもに、そま  
は、内外本末字失するもの小して。是字何ぞ  
の謂む故、道と名おしを

皇國小取て本字立て海外萬國の所長を取て羽翼  
をふし。確實正大の鑿道を立て是を西方に施し海  
内の鑿道を一新し上ハ君親の病を療し下ハ貧賤  
の厄を救ひ生徒を教ふ人を育すたさる。漢人  
曰鑿ハ小伎なりや。吾國も其意を受けて中古以  
來是字制外に置けり。此故小道はよく小く伎益を  
狭く成もてさて。遂に其内を輕し其本を失ふに至り

しなり。こは前も云る如く。天下を治免蒼生を憐  
むの至情を起りて全く國政の一なる故に。其道平  
のころは治病の間自然人心を害ひ。其道正しければ  
治病の間自然人心を正くにだし。其ハ人の世に  
ある間憂きふし繁きハ常なきや。其の中に病ハ  
憂たく苦きハ非ず示其病の愈はう嬉しく樂き  
ハ無るは。故其病を療むるに海外の薬術のみ  
としておきを治せ。其苦きを救ひきたる嬉さに自ら  
其薬術の起る本を尋ねる漢洋を慕ひ。  
皇國の方術を以ておきを救ふ。自ら其本たる

皇國を尊むこと、成行ハ。自然の人情少ク人ニ免る  
 故ヨラざるあり。さて皇漢洋を合セ本未正キ、醫方を  
 以テ正キを療免たらむには。亦そそを慕テる餘り  
 自然天地の公道ヲ知テこも信に小至りぬ。然  
 きバ天下人心を正トシ方向を定メるハ、  
 正トスるを近キハなる。然人ハ正ト上下方向  
 定ヨリたらむに、國體是に因テ充實トシ、  
 皇威是に因テ益輝キ外人是に因テ畏服す。之  
 抑醫道、小至らバ獨疾病ヲ救ふ。乃みあらん  
 大政の一助トシテ道天地也。若小朽なる。法もの也。

、重予が管見見不也バ決免て純謬多らむ。見む人  
 々く是字正てよ。

右權田真助先生著 医道沿革考 附録一卷 借早川氏 謄寫  
 明監内子秋七月中院校合 金城草齋 岡正  
 明治九年丙戌三月念一夜再閱過。 犀水直



